

## 第 16 期所沢市史グループワーク発表会

### ～「所沢飛行場 100 年の歴史」～

2019-10-22 記 小倉洋一

■実施日：2019-10-17    ■参加者：20 名    ■場所：中央公民館 8・9 号室

今回の活動は 10 年前に第 16 期所沢市史グループが、所沢飛行場開設 100 年を迎えるにあたり、「所沢飛行場 100 年の歴史」のテーマをグループワークで発表したDVDの鑑賞会でした。



次のような項目別の発表であった。

#### 1. 飛行場、開設前の所沢

所沢の地形・景観・人類、集落の痕跡・街道筋・知名度・産業等年代別に調査。所沢村は江戸時代前期の開村以来、小村落にすぎなかったが、江戸時代後半頃から農家の副業としての織物が盛んになり明治維新以降、地場産業の所沢織物及び狭山茶を主力とした発展により東京に隣接する一大商業都市の様相を呈していたものと考えられる。そして、所沢台地の地形と相俟って我が国の飛行場発祥の地に相応しいと誰もが認める環境にあったものといえる。

#### 2. 日本の航空の始まり

航空とは航空機（気球・飛行船・滑空機・飛行機・ヘリコプター）で飛行することで、明治 43 年（1910）に徳川大尉のアンリ・ファルマン機（フランス製）と日野大尉のグラード単葉機（ドイツ製）が代々木練兵場で日本初の動力飛行記録を樹立した。

#### 3. 日本初の飛行場が所沢に

欧米より飛行機の発達が喧伝されてきた。わが国では維新政権が軍事力の充実・養成は、諸国と対峙するための至上課題であった。明治 42 年（1909）7 月、勅令により臨時軍用気球研究会が設置され、いよいよ世界の航空に遅れまいと歩み始める。飛行場については明治 43 年 3 月、所沢に設置を決定する。

##### 「決定の経過」

飛行場候補地として、所沢のほか栃木県大田原、宇都宮付近、神奈川県相模原、千葉県下志津原があがる。選定条件は、落雷の少ない気象条件、地形の起伏が少ない、高圧送電線がない、鉄道

の便があること等で所沢が選ばれた。

以下はDVDにより年代項目別に発表された。

4. 土地買収・開設は急ピッチに進められた
5. 飛行場の開設（初飛行）
6. 3回の飛行場拡張
7. 戦後の飛行場と米軍所沢基地
8. 基地の恩恵
9. 基地の弊害
10. 基地返還運動
11. 基地返還アンケート調査について
12. 最後に次のように学習のまとめとした。

- ・所沢市史グループは、所沢市の歴史を学ぶために「所沢飛行場 100 年の歴史」をテーマとした。
- ・所沢市は日本最初の飛行場が開設された場所で、日本航空教育の重要な役目を果たしてきた。
- ・昭和 43 年（1968）から、基地の返還運動が始まり、米軍所沢通信基地は、今までに 70% 程度が返還され、跡地には市役所をはじめ公共施設が出来て街の中心的な役割を果たしている。また、未返還については市、市議会、基地対策協議会の三者が共に連携をとりながら基地の全面返還を最終目標として活動している。
- ・今回、基地返還について、市民大学、高齢者大学の受講生の協力のもと「基地返還アンケート」を実施した。質問は 7 項目を設定。そのなかの項目で、基地返還運動について「関心がある」が 90% 近い数字で、返還要求については「全面返還」「部分返還」を合わせ 86% と高い数字であった。市では「米軍所沢通信基地 97 万㎡返還にむけて」「米軍通信基地について」のパンフレットを発行しているが、公民館活動などを通じて積極的な PR が期待される。
- ・今までの基地返還
  - 第 1 次返還 昭和 46 年（1971）191ha
  - 第 2 次返還 昭和 53 年（1978）9.75ha
  - 第 3 次返還 昭和 57 年（1982）1.35ha

※現在の基地返還について

- ・通信基地つらぬく道路

基地は市の中心部にあるため、中富方面から来る緊急車両などは、大きく回しないと、防衛医大に行くこともできないといった支障がでている。このため、これまで市や所沢市基地対策協議会が、国の関係機関へ「東西連絡道路用地の返還と道路建設の要望」をおこなってきた。結果、平成 24 年 2 月 23 日、返還合意となった。この道路は、延長約 580m、幅員 16m、防衛医大北側の文教通り T 字路から、所沢パークタウン並木通り団地付近まで東西に結ぶ。敷地面積は約 9400 ㎡。市によると、東西連絡道路用地は、道路が完成したのち、アメリカ側から返還されるという。

本年も第 26 期グループワーク発表会が中央公民館ホールで 10 月 9 日（水）、10 月 15 日（火）に行われた。各グループでテーマを選定しての 2 年次の学習事業である。所沢市民大学受講生の大半が所沢都民として活躍してきて、入学の動機も生涯学習を通しての仲間づくりと思われる。

このようなグループ活動はサークル内の活動にも十分生かされると思われる。そして、他のグ

ループの発表を鑑賞するのも、学習の一環として大いに参考となると思われる。

＜所沢市民大学第 16 期所沢市史グループ、グループワーク発表会資料より抜粋＞

